



平成 24 年 9 月 14 日 第 2 卷(第 23 号)

発行： 東京都新宿区住吉町 8-20 四谷チンゴビル 2F

災害対策本部 TEL (03)3351-5038

FAX (03)5366-1058

mail: dsstsw@jaswhs.or.jp

●●●目次

1. 災害対策本部からのお知らせ
2. 現地支援活動報告
3. 現地感想文
4. 事務所感想文

災害対策本部からのお知らせ ●●●

【1. 協力員募集】

●●●現地

現地の業務状況を鑑み、当面は制限なく受入を行います。

中3日以上・なるべく平日の活動が理想的ですが、具体的な日程については、災害対策本部までお気軽にご相談ください。

***9月もまだまだ空いております。ご都合の付く方、ご協力をお願いいたします！

●●●事務所

引き続き募集しております。

平日のみの活動ですが1~2ヶ月に1回でも構いません。ご協力をお願い致します。

【2. 災害対策本部会議】

9月7日(金)に実施しました。次号に議事録を掲載させていただきます。

次回は10月6日(土)18:00~ 協会事務所にて開催します。



上毛カルタ：㊦かほ（伊香保）温泉 日本の名湯

（群馬県渋川市伊香保町）

【3.書籍販売】

『東日本大震災医療ソーシャルワーカーの支援のバトン1』の販売を行っています。

発災から昨年9月30日までの石巻・仙台・大槌町・事務所・災害対策本部の活動の記録をまとめました。ぜひご覧になってください。尚、売上金の全額を皆様からの寄付として、本活動の資金に充てさせていただきます。

※ご注文は注文用紙で承ります。



●●●注文用紙はホームページからダウンロードできます。

http://www.jaswhs.or.jp/date/publishing_detail.php?@DB_ID@=45

【4.facebook】



facebook でも情報をお伝えしています。現地や災害対策本部の日々の様子をお伝えしています。応援よろしくお願いたします。

●●●URL

<http://ja-jp.facebook.com/pages/公益財団法人日本医療社会福祉協会-災害対策本部/156327867812970>

【5.YouTube】

現地での災害支援活動の様子を前事務所担当の一原さんが VTR にまとめて下さいました。YouTube にアップしましたので、是非ご覧ください。「医療ソーシャルワーカー災害支援」で検索すると見つかります。



●●●URL

<http://www.youtube.com/watch?v=vn34I9h5rJ4&feature=youtu.be>

【6.現地・事務所職員募集】

災害対策本部では現地・事務所職員を随時募集しています。
災害支援に関心のある方からのご応募をお待ちしております。
または周りでご興味のある方がいらっしゃいましたら、是非ご紹介ください。



群馬サファリパーク（群馬県富岡市）

●●●①現地常駐者(短期契約職員)

- ・就業場所：宮城県石巻市大街道北
- ・就業時間：9～17時
※業務の関係で残業あり。
- ・休日：土曜・日曜・祝日・年末年始
- ・基本給 250,000円/月
- ・通勤費実費支給
- ・社会保険加入
- ・医療ソーシャルワーカー業務経験必須
- ・長期の方優遇。月単位でも応相談。

●●●②災害対策本部事務所担当(パート職員)

- ・就業場所：協会事務局内
- ・就業時間：週3日程度 10～17時
※業務の関係で残業あり。
※頻度・時間は応相談。
- ・休日：土曜・日曜・祝日・年末年始
- ・時給 900円～ 通勤費は実費支給
- ・経験不問。医療ソーシャルワーカー業務経験者優遇

ご応募の方は下記宛に履歴書をお送りください。面接にて決定させていただきます。
または災害対策本部までお気軽にお問い合わせください。

●●●お問い合わせ

住所：〒162-0065 東京都新宿区住吉町 8-20 四谷チンゴビル
電話：03-5366-1057
担当：笹岡・中川

●●●現地支援活動報告

活動期間:2012年8月9日~8月11日

井田 茂樹 (神奈川県 国立病院機構神奈川病院)

初めての参加だったので、どのような仕事があるのか、自分にできるのかという不安を持っていました。幸いだったのは、神奈川県医療社会事業協会に参加の意思を示していたので、同じ神奈川県内のソーシャルワーカーと同時期の日程を組むことができ、ボランティア同士で話がしやすかったことです。

現地では、3日間のほとんどがアセスメントチームとの同行訪問でした。アセスメントチームは地域を決めて一軒一軒訪問をして、身体面、精神面の健康状態、家屋の損壊の程度と補助を受けられているかどうかなどを確認してまわります。トレーニングを受けたスタッフが主となって話をされるので、医療機関に勤めるソーシャルワーカーとして気になる部分があった時に、追加して質問をするというかたちで訪問をしました。

訪問した地域や対象者にもよりますが、震災から1年以上たち、次のステップに進もうとしている方、震災の影響でコミュニティーは壊れて寂しい思いをされている方などいろいろな方とお会いすることができました。確かに震災から時間はたち、いわゆる災害急性期は脱却していると思いますが、あの震災で影響を受けなかったという人はおらず、まだまだ立ち直りの初期段階にあるのではないかという印象を受けました。

最後になりましたが、心温かく迎えてくれた日本医療社会福祉協会の現地スタッフの皆様、事務面でバックアップをしてくださった事務局スタッフの皆様、大変ありがとうございました。また、お手伝いができる機会がありましたら、どうぞよろしくお願い致します。

活動期間:2012年8月25日~8月28日

佐藤 千秋 (神奈川県 聖マリアンナ医科大学東横病院)

4日間の活動内容は、在宅避難者支援の第1期調査で継続支援が必要となっている方、第2期調査アセスメント班の訪問の結果、ソーシャルワーク支援が必要と判断された方のご自宅訪問を中心に行いました。

最初は、現地の社会資源もよくわからず、支援を必要と感じているかも分からない方を突然訪問することに戸惑いも感じました。しかし、数名の方を訪問させていただきお話を聴き、被災された方々は以前から抱えていた健康不安・経済問題・家族関係の問題などに加えて、大切な家族や住居・仕事など多くの喪失を体験し、身体的・精神的、そして物理的にも過酷な状況であること、そのなかでも懸命に生活されていることを知りました。ソーシャルワーカーがアウトリーチをして支援をすることは、専門的支援の必要性と緊急性を判断して適切な機関につなぐこと、そして、住民の方々の思いに寄り添うことに意義があるのだと感じました。

実際に訪問した石巻は、自然豊かで美しい街でした。しかし、その土地が様変わりしている地域を目の当たりにし、被災された方の思いを聴き、かけがえのない家族、穏やかな日常が奪われた人々の悲しみはどれほどかと、言葉を失いました。

1個人のソーシャルワーカーができることは限られていますし、「短期間で何かできたのだろうか」と自問自答してしまいましたが、自分に焦点を当てるのではなく、被災された方にとって必要な支援を継続して受けられる体制があることが大切であり、そのためにソーシャルワーカーとして何ができるのかを考えていきたいと思います。

●●●現地感想文

●●●9/4 依光 則子(現地担当)

今日は協力員の方に同行し、牡鹿半島東側の突端の浜へ。港から急な崖にはりつくように家が並ぶ、小さな集落です。

独居の訪問先はご不在、でも通りがかりの方が最近の様子を教えてくださいました。近くの仮設も、おばあちゃんや子供たちが楽しげで、暖かい雰囲気です。

集団移転の重要性、またコミュニティから引き剥がされる過酷さを、改めて感じました。

●●●9/5 目黒 崇英(愛知県・小林記念病院)

震災後の5月に岩沼市へ泥かき、今年5月に宮古市へ演奏ボランティアで個人の活動として赴いたが、今回ソーシャルワーカーという専門職として一体自分に何ができるのだろうという思いをかかえながら、石巻へ来た。組織的に支援活動を行い、その一翼をソーシャルワーカーが担っている現場を目の当たりにし、微力ながら関わらせて頂いたが、さまざまなチームと協働しながらロングタームの支援を行うことの方と継続させる難しさを実感した。時間の経過とともに、ソーシャルワーカーはじめ支援専門職の役割も変わっていく。目の前の人に、ソーシャルワーカーとして力になりたいという思いをどう形として実現するのか、地域、ボランティア組織、各専門職とどう連携をとり、困難を抱えた人達を支援するのか、ソーシャルワーカーとしての立ち位置に大きな刺激を受け日々であった。

●●●9/6 中辻 康博(現地担当)

昨日は小林記念病院の目黒さんをサポートセンターの夕食にお招きして、南米に2年程滞在されていた時に習得されたケーナでフォルクローレをご披露いただきました。

サポートセンターに宿泊するメンバーに加え、武藤さんをはじめ事務局の方々も音色を聞き駆けつけてくれ、最後はアンコールまで…。「コンドルは飛んでいく」を聞いて、眼を閉じると、アンデスの山々の風景が思い浮かんでくるようなひと時となりました。

●●●9/7 中辻 康博(現地担当)

昨日の激しい雨も1日で、本日はすっかり晴天です。夕方の会議を終えると、辺りはすでに真っ暗。

日が短くなり、朝晩は秋の訪れを伺わせるような気候の石巻。

ただ、日中の暑さは相変わらずのようで、熱中症には気を付けて訪問に行きたいと思います。

●●●9/8 久保木 美由紀(現地担当)

先日の仮設サロン会議で、「フリフリグッパ体操」を教えてくださいました。激しい動きはないけれども、じわじわ効いてくる感じでした。講師の方の年齢は80代。足を高々とあげて、背筋が伸びていてはつらつとされていました。元気を頂きました。

●●●事務所感想文

7月8月と暑い中、たくさんの協力員さんが現地で活動してくださいました。ありがとうございました。9月や10月はまだあまり応募がありませんのでお待ちしております。

事務所には、群馬県協会の尾方さん、神奈川県協会の富永さんが定期的に来て下さっています！

9/12 東日本災害対策本部事務所 三輪 清子

東日本大震災 MSW 災害支援ニュース
平成24年9月14日 第2巻23号
作成 群馬県医療ソーシャルワーカー協会